

でんぎょうだい し い あさ やす ふか
 伝教大師云わく「浅きは易く深き
 かた しゃ か しょはん あさ
 は難しとは、釈迦の所判なり。浅き
 さ ふか つ じょうぶ こころ
 を去って深きに就くは、丈夫の心な
 てんだいだい し しゃ か しんじゆん ほっけしゅう
 り。天台大師は釈迦に信順し法華宗
 たす しんたん ふよう えいざん いっけ
 を助けて震旦に敷揚し、叡山の一家
 てんだい そうじょう ほっけしゅう たす にほん
 は天台に相承し法華宗を助けて日本
 ぐつう どうんぬん あんしゅう にちれん
 に弘通す」等云々。安州の日蓮は、
 おそ さん し そうじょう ほっけしゅう
 恐らくは、三師に相承し、法華宗を
 たす まっぽう るつう さん いち くわ
 助けて末法に流通す。三に一を加え
 さんごく し し な
 て三国四師と号づく。

(御書新版612ページ・御書全集509ページ)

通解

でんぎょうだい し やさ
 伝教大師は「浅い教えは易しく、深い教え
 は難しいとは、釈尊による判定である。浅い
 教えを捨てて、深い教えを採用することは、
 じょうぶ (仏) の心である。てんだいだい し しゃくそん
 天台大師は、釈尊に
 したが ちから そ せんよう ひ
 従い、法華宗に力を添えて中国に宣揚し、比
 えいざん
 叡山の一家は天台のあとを受け継いで、法華
 宗に力を添えて日本に弘める」と述べている。
 あわのくに おそ おお
 安房国の日蓮は、恐れ多いことだが、釈尊・
 天台・伝教のさんし
 三師のあとを受け継いで、法
 華宗に力を添えて末法に流通するのである。
 それゆえ、三師に日蓮一人を加えて「さんごく
 しし
 三国四師」と名付けるのである。

一人一人が“世界広布の主人公”

よくわかる解説

こんにちは！ サンです！ 今回も元気いっぱい
 御書を学んでいこう☆

今回学ぶ「けんぶつ みらい き」は、日蓮大聖人が、52
 歳の時に流罪先の佐渡・一谷で著された御書です。
 題号には「未来を予見して記した仏の言葉を実現す
 る」という意味があります。本抄では、釈尊の未来
 記（予言）である末法の法華経流布を日蓮大聖人が
 実現するとともに、未来には法華経の肝心である南
 無妙法蓮華経が、必ず全世界に広まっていくことが
 明かされています。

今回の御文では、冒頭で「六難九易（仏の滅後に
 法華経を受持し弘通することの難しさを、6つの難
 しいことと9つの易しいこととの対比で示したも
 の）」を解説した伝教大師の言葉を引用され、浅い
 教えから離れ、深い法華経を受持して弘めることが
 「仏の心」であることが示されています。続いて、
 大聖人御自身が、インドの釈尊、中国の天台、日本
 の伝教の後を受け継いで法華経を弘めていることが

ら、この三師に御自身を加えて、「三国四師」と呼ば
 れました。

また、本抄には「仏法西還」という考え方が出て
 きます。これは、インドで生まれた仏法が東の日本
 へ伝わってきた後、今度は大聖人の仏法が西へ還り、
 世界へ流布されることを意味する大聖人の未来記で
 す。これを実現したのが、創価三代の師弟なのです。

今、大聖人の仏法は世界192カ国・地域へと広
 まり、24時間365日、題目の音声がおんじょう
 が途切れることなく、地球を包み込んでいます。大切なことは、
 この師匠から受け継いだ広布のバトンを、私たち一
 人一人が受け継ぐ使命があるということです。

池田先生は語っています。

『太陽の仏法』を持った私たちは、いやまして『人
 間革命の光』を社会へ、世界へ、未来へ放ちゆくこ
 とを決意合って、師弟共戦の新たな広布の旅を力
 強く出発しようではありませんか

みんなが“世界広布の主人公”です。信心根本に
 使命の道を歩んでいこう！